

④ 奉納番楽実演



撮影：松田高明



撮影：松田高明



撮影：松田高明

※写真は令和3年度山開き(番楽奉納祭)にて、釜淵番楽が担当した際のもの

【メモ】

飢山では、毎年6月第1週に行われる山開きの際に「番楽奉納祭」を開催し、町内3ヶ所に伝承されている「釜淵番楽」・「八敷代番楽」・「平枝番楽」が輪番で番楽を奉納している。

今回のツアーにて奉納番楽を実演いただく釜淵番楽は、江戸時代中期に秋田県矢島地方から伝えられたとされ、番楽の中でも珍しい3拍子の番楽であり、その昔、新庄藩主戸沢公が釜淵番楽を照覧された際には、その舞のすばらしさを褒めたたえ、「鶴」「亀」「松」「竹」の幕を下ろされたと言われている。

毎年9月13日に行われる山神社の祭りにおいては、虚空蔵神社(こくうぞうじんじゃ)と風呂輪権現(ほろはごんげん)で獅子舞を奉納したのち、地区内の家々にて門獅子(かどじし)と呼ばれる邪気払いを行っている。

昭和57年には釜淵番楽保存会を設立し、釜淵一区を中心とした地域と連携した活動を行っているほか、平成16年度からは地域の公民館を活用し、番楽と食文化を融合させた「釜淵番楽交流会」を実施し、冬のイベントとして定着させるなど、伝統芸能の保存活動にも尽力している。